

平成 29 年度 第 3 回 高森町食育推進会議

会議記録

日 時：平成 30 年 3 月 28 日（水）15 時 00 分～16 時 00 分

場 所：高森町役場 中会議室

出席者：委員 計 10 名

事務局：健康福祉課 計 5 名

記 録：伊東

1. 開会

2. あいさつ

福島（健康福祉課長）：1 年間計画を立てて行ってきたことの確認をし、高森町での来年度の取り組みを一緒に考える機会としたい。各団体の様子について、意見を出していただき、良い会にしたい。

古瀬（食生活改善推進協議会）：今年度最後の会議なので、よろしく審議のほどをお願いします。

3. 協議事項

(1) 平成 29 年度食育取り組みについて

古林（事務局）：第 2 次計画の目標値を経年で 31 年度まで載せてある（資料 1 参照）。保育園・小学校・中学校の朝食欠食率は、6 月と 1 月に実施したアンケートの結果を平均した値としているので、各団体で参考にさせていただけたらと思う。朝食習慣 100%が結果に結びつくのは、難しい。

肥満、HbA1c は各団体の健診結果からあげている。

地域の地産物の割合は年度終わりに出させていただいているので、平成 28 年度の結果までになっている。

次年度に向けての参考にさせていただけたらと思う。

1) 平成 29 年度各団体の取り組み状況

古林（事務局）：年度初めに出していただいた、「平成 29 年度高森町の「食育」への取り組み～5 つの目標にむけての実績～」の実績について朝食欠食割合の減少とそれ以外に力を入れたところを各団体でお話しいただきたい。

資料 2 参照

2) 朝食アンケートについて（資料 3 参照）

伊東（事務局）：6 月、1 月の結果をもとに平均を出してある。各団体で結果をまとめたのでそれぞれの参考にさせていただけたらと思う。

結果としては、6 月に比べ 1 月の朝食欠食率が保育園のお子さん以外、高くなっていた。欠食理由としては、お子さんも保護者も「食欲がない」「時間がない」が多く挙げられていた。今年度より集計方法が異なるため、保育園以外の欠食率が昨年よりも高くなっていると考えられる。全体の喫食率は高いが、朝食習慣 100%を目指すためには残りの数%に課題が多いと考えられる。欠食理由の「食欲がない」「時間がない」を読みとくための工

夫が求められる。

古林(事務局)：各団体の取り組み、朝食アンケートの結果でお気づきの点があれば、次年度の参考として出していきたい。

新海(飯田女子短期大学)：(朝食アンケートについて)6月よりも1月で欠食率が高くなっているが、6月のほうが朝食を食べやすいということか。欠食率が高くなる時期に朝食の役割などのお話をするのが効果的ではないか。

また、消防団の朝食欠食率が下がってきている(資料1参照)のは指導の効果がでてきているということか。

古林(事務局)：消防団の方対象の健診で生活リズムなども含めた朝食の必要性の話はしている。

その成果がでているのであれば、嬉しいが、子育て世代でもある重要な時期だと思う。

新海(飯田女子短期大学)：(消防団で)肥満はあまり下がっていないが、取り組みとしてはどうか。

福島(健康福祉課長)：消防団健診はここ9年ほどの取り組み。幹部会に行って話をしており、積み重ねが重要である。相談も対象者だけではなく、家族一緒に聞いてもらうことが重要だと考えている。高齢になってからの健康につなげていきたい。

新海(飯田女子短期大学)：導入した体組成計もうまく使っていただけると良いと思う。

古林(事務局)：限られた機会なので、何かご意見や補足していただくことがあればお願いしたい。

池野(みなみ信州農業協同組合)：みなみ信州農業協同組合の新しい取り組みとして、夏休みに行ったゆうきの料理教室がある。地域伝承食として五平餅を作った。来年度も開催できたら良い(資料2参照)。

朝食アンケートについては、前回の会議でも述べたが、子どもたちに食べたい朝食をアンケートするのはどうか。バランスが良いかは分からないが、子どもも朝食が食べやすくなるのではないか。

福島(健康福祉課長)：(朝食アンケートの結果から)保育園の朝食喫食率は100%に近い。来年度は共食にも力を入れていくのはどうか。

前田(町立保育園)：朝食の欠食率への取り組みは実施してきたが、共食についてはまだ手がけていないため、来年度への課題としたい。

小平(一般)：子どもが食べたいものと、食べさせたいものは異なる。一緒に食べることは大事。中学校の部活時間も減るため、中学校でも一緒に朝食が食べられたら良い。

資料6について

古林(事務局)：ACEプロジェクトを見たことある方はいるか。

たかもりACEプロジェクトは、子どもから高齢者まで住み慣れた町で健康に安心して過ごしていただける、まちの実現に向けて取り組む。タニタ体組成計を持ち出し、貸し出しや出張測定会等を実施し、体を知る機会を持ってもらいたい。

朝食習慣100%は継続して行い、実習セミナーについては、好評であった学童期調理実習セミナー、新しい取り組みとして小学生以下の親子を対象に食育まつりを実施する(その他セミナー内容については資料4参照)。

3) 平成 30 年度の取り組みについて

古林（事務局）：平成 30 年度の取り組みについては行動目標を出していただいて、一緒に活動していきたい。

福島（健康福祉課長）：食育活動は町だけで出来るものではないので、それぞれの立場で実施していただくことが重要。すぐに結果が出るものではないので、活動の積み重ねが大きな成果につながる。